

# 国史跡高宮廃寺跡

## 内容確認発掘調査概要 I



寝屋川市教育委員会

平成 26 年 3 月

## 序

寝屋川市の高宮二丁目には延喜式内社の大杜御祖神社が鎮座しています。境内には古瓦や礎石、東塔跡の土壇と心礎、さらに金堂跡と思われる土壇があることから古代寺院の存在が知られていました。この土壇において土取りによる破壊の危機が生じたため、昭和 28 年に大阪府教育委員会により東塔跡の発掘調査が行われました。また、昭和 54 年には境内地北側の民有地において宅地造成の計画が持ち上がり、再び遺跡が破壊される可能性が起こりました。これを機に寝屋川市教育委員会により寺域全体の範囲確認調査が行われ、その成果を踏まえて、翌 55 年に国史跡の指定を受けることとなりました。民有地については、その後公有地化が行われ、2 度の破壊の危機を免れた高宮廃寺跡は史跡指定後、現状での保存が図られています。

このたび、高宮廃寺跡の整備・活用に向けて過去の調査地の再発掘を含めた内容確認発掘調査を実施するにいたりました。

調査の実施にあたり、ご協力をいただいた大杜御祖神社・大字高宮財産管理委員会・地元自治会、及びご指導、ご助言をいただいた国（文化庁）、大阪府教育委員会および寝屋川市文化財保護審議会委員、調査指導者の各先生をはじめ関係各位に感謝の意を表するとともに、今後とも本市の文化財保護行政に一層のご指導ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成 26 年 3 月

寝屋川市教育委員会  
教育長 高須郁夫

## 例言

1. 本書は、寝屋川市教育委員会が、平成 25 年度国庫補助（総額 2,935,600 円、補助率：国 50%）を得て実施した寝屋川市高宮二丁目所在の国史跡高宮廃寺跡内容確認発掘調査の概要報告書である。
2. 調査は、平成 26 年 1 月 14 日に着手し、平成 26 年 3 月 20 日に完了した。
3. 調査の実施にあたっては、文化庁・大阪府教育委員会・寝屋川市文化財保護審議会委員及び網伸也（近畿大学）・鷲森浩幸（帝塚山大学）・箱崎和久（奈良文化財研究所）・菱田哲郎（京都府立大学）の各氏の指導を得た。
4. 調査の過程で、下記の方々に有益なご教示をいただいた。記して感謝の意を表する次第である。  
（順不同・敬称略）  
山下信一郎 森屋直樹 山上弘 井西貴子 関真一 大脇潔 近藤康司
5. 発掘調査及び本書の執筆と編集は丸山香代が担当した。

## はじめに

国史跡高宮廃寺は寝屋川市の南東部の高宮二丁目に所在する。寝屋川市東部は生駒山地から西側にのびる標高約 30 ～ 50m の丘陵が広がっており、遺跡はこの丘陵上で南に向かって緩やかに低くなる傾斜地上に立地している。周囲に広がる高宮遺跡からは、古墳時代後期から飛鳥時代にかけての集落が検出されており、高宮廃寺を創建した古代氏族の居住域と推定されている。現在、推定西塔跡の上に鎮座している大杜御祖神社の社殿は江戸時代に建てられたものであり、旧宮地伝承地が神社北西約 50m に残されている。

## これまでの調査

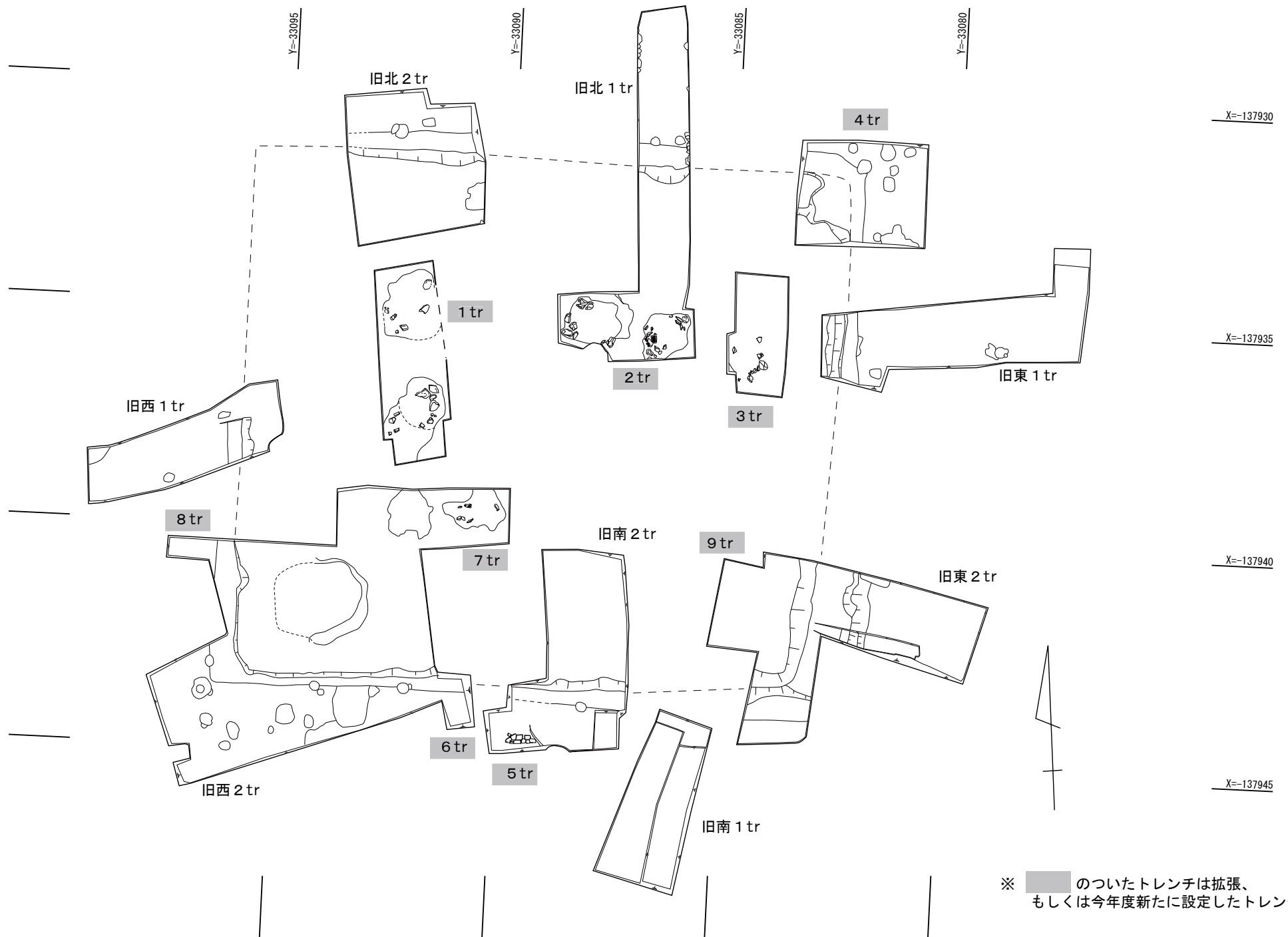
昭和 28 年に境内地に残されている土壇が土取りにより破壊の危機が生じたため、大阪府教育委員会により遺跡全体の地形測量と東塔跡の発掘調査が行われた。この調査で出土した瓦より寺院の創建が白鳳期と判明し、さらに寺院が双塔式伽藍配置であると推定された<sup>1</sup>。

昭和 54 年には、寝屋川市教育委員会により寺域全体の範囲確認調査が行われ、主要な伽藍の建物跡が確認された。この時検出された遺構としては、回廊の北西隅と北回廊・東回廊の一部、金堂基壇、講堂基壇、中門と南門の一部である<sup>2</sup>。

今年度の調査では、昭和 54 年の金堂跡と東回廊の再発掘と一部旧トレンチの拡張、さらに新たにトレンチを設けた。



第 1 図 国史跡高宮廃寺跡位置図



第2図 国史跡高宮廃寺跡 金堂トレンチ配置図 (S=1/80)

## 金堂跡について (第2図)

金堂の主軸方位はN - 1° 25' - W (Nは座標北を表す。)、平面規模は残っている基壇土の立ち上がり部分からみると、東西 13.1m ~ 13.5m、南北 11.5m ~ 11.9m となり、基壇の周囲で確認した掘込地業の規模は東西 14.2m、南北 12.4m ~ 12.9m となる。掘込地業の深さは不明である。

金堂基壇の構築方法は、まず寺院造営以前の整地土層を掘り込んでいる。基壇土は異なる土を何層にもわたりつき固め積み上げる版築工法を採用している。暗褐色土層・明赤褐色土層・黒褐色土層・灰白色砂層・明黄褐色砂質土層が見られるが(写真①~④)、基壇全体にわたり一様ではない。



写真① 旧南2tr 版築 (南より)



写真② 旧西1tr 版築 (東より)



写真③ 旧西2tr 版築 (南より)



写真④ 旧北1tr 版築 (北より)

基壇上面の礎石は全て抜き取られており、境内地に金堂に使われたと思われる礎石が散在している(写真⑤)。

礎石の抜取穴が確認できたのは身舎部分の6箇所、身舎が桁行3間、梁間2間であったことが明らかとなった(写真⑥・⑦)。側柱の礎石抜取痕跡が確認できなかったが、本来の建物が桁行5間、梁間4間と推定できる。身舎の正確な柱間は不明であるが、礎石抜取穴等から桁行約5.7m(柱間寸法のわかる所で1.8m)、梁間約4.8m(2.4m・2.4m)である。残存している基壇の高さは、基底部から測ると約1mである。境内に散在している礎石が金堂のものであるならば、これらの礎石の高さが約40cm前後であるので、基壇の基底部から礎石の上面までの高さは、約1.4mと予想できる。

基壇の立ち上がりや整地土は明瞭に確認することができたが、基壇外装の痕跡は確認できなかった。しかし、地表面に石材を据え付けた痕跡がないことから石を用いた基壇外装ではなかったと推測できる。どのような基壇外装が用いられたかは今後検討していく。



写真⑤ 境内に残された礎石



写真⑥ 1tr 礎石抜取痕跡 (東より)



写真⑦ 2tr 礎石抜取痕跡 (西より)



写真⑧ 旧南2tr の瓦列 (東より)



写真⑨ 5 tr の瓦列 (南西より)



写真⑩ 旧西 2 tr 掘込地業 (東より)



写真⑪ 金堂基壇北東隅 (南東より)

基壇の南側 (5 tr)、建物の中軸線付近で基壇の立ち上がりから約 1.2m の位置で瓦列を検出した (写真⑧・⑨)。瓦列は基壇と並行して幅 0.7m 分確認でき、南側の瓦列は半裁した平瓦や丸瓦の小口を合わせまっすぐに側面をそろえていて、その内側に瓦を置いている。用いられている平瓦は全て、凸面に縄目を持つ平瓦である。

### 東回廊について (写真⑫)

過去のトレンチの再発掘を行い、報告どおり東回廊の基壇と思われる遺構を検出した。版築の状況は確認できなかった。東回廊のすぐ東は急に地形が傾斜になるため、版築を行わないと回廊の基壇が保てないとの指摘もあった。遺構の検出状況からも、回廊ではなく築地の可能性も考えられる。来年度以降、北側と南側での調査を予定しているので、今後の検討課題としたい。



写真⑫ 旧東回廊トレンチ (南より)

### 出土遺物について

昭和 54 年の調査において出土した遺物の量をコンテナ数 (縦 59、横 38、深さ 14cm) で示すと 47 箱あり、今回の出土量は 23 箱であった。

遺物は大半が瓦であり、土器片は凶化し得ない碎片が出土したのみであった。今年度に関してはそのほとんどが過去の調査の埋め戻し土からの出土であり、実際新しく設定した調査地から出土した量はコンテナで 2 箱となっている。以前の調査と今回の調査の出土瓦から抽出できた軒瓦はわずか 6 点である。丸瓦・平瓦については未整理のため、今後報告する。

金堂跡から出土した軒瓦については以下の通りである。

#### ○素弁八葉蓮華文軒丸瓦 (写真⑬)

八弁の素弁である。外縁は素縁で、蓮弁は中央が膨らみ弁端に切り込みをもつ。胎土は密で、色調は橙色と褐灰色のものがある。焼成は軟質である。2 点出土した。



写真⑬ 素弁八葉蓮華文軒丸瓦

○複弁四葉蓮華文軒丸瓦（写真⑭）

主要伽藍各所から出土している複弁四葉蓮華文軒丸瓦の破片である。周縁に線鋸歯文、外区には珠文を配する。胎土は密で、色調は褐灰色を呈する。焼成はやや軟質である。2点出土した。



写真⑭ 複弁四葉蓮華文軒丸瓦

○均整唐草文軒平瓦（写真⑮）

中心飾りは不明である。外区に文様は見られない。顎形態は曲線顎である。2点出土しており、1点には朱の痕跡が見られる（写真⑯）。胎土は砂を少量含み、色調は褐灰色を呈する。焼成はやや軟質である。



写真⑮ 均整唐草文軒平瓦



写真⑯ 朱の付着した軒平瓦

## 報告書抄録

ふりがな	くにしせきたかみやはいじあとないようかくにんはくつちょうさがいよう							
書名	国史跡高宮廃寺跡内容確認発掘調査概要 I							
副書名								
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	丸山香代							
編集機関	寝屋川市教育委員会 社会教育部 文化スポーツ振興課							
所在地	〒572-8555 大阪府寝屋川市本町1番1号							
発行年月日	2014年3月							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (m <sup>2</sup> )	調査原因
くにしせき 国史跡 たかみやはいじあと 高宮廃寺跡	おおさかふねやがわし 大阪府寝屋川市 たかみや 高宮二丁目 おおもりみおやじんじゃけい (大杜御祖神社境内)	市町村	遺跡番号	° ' "	° ' "	2014年 1月 ～3月	115.7	内容確認 調査
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物	特記事項	
国史跡 高宮廃寺跡	寺院跡	白鳳時代～平安時代		金堂基壇		瓦 土師器	掘込地業	